

山武の



普及だより

山武農業事務所

山武農林業振興普及協議会

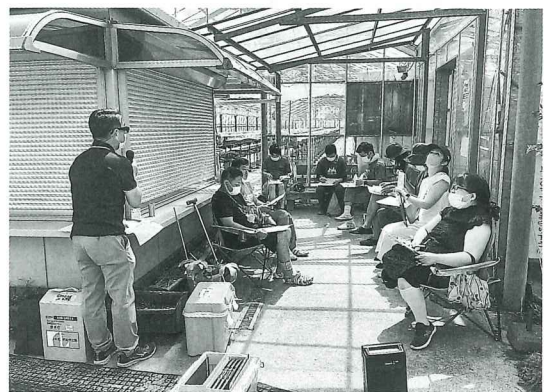
〒283-0005 千葉県東金市田間2-14-2

☎ 0475-54-0226 FAX 52-7914

ホームページ <https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/index.html>

資材価格高騰を跳ね返せ!!

～山武地域における施設園芸産地の持続的生産に向けた取組～



燃焼効率の高い暖房機 (右) と
側面カーテンの裾部を支柱で止めている様子 (左)

土壌診断に関する研修会の様子

山武地域は、温暖な気候と日照に恵まれ、きゅうり・なす・トマト・いちご等の野菜類の栽培が盛んな施設園芸産地です。施設園芸では、暖房用の燃料、被覆資材、肥料が使用されますが、近年、資材・資源の高騰や環境への配慮から、省資材・省エネ化を図りつつ、高品質な農産物を持続的に生産することが産地としての喫緊の課題です。山武地域におけるこれらの課題への取組を紹介します。

▼きゅうり産地の取組

「暖房効率向上」

冬に栽培する越冬きゅうりは、施設内に暖房機を設置して温度を保っています。燃焼効率の高い暖房機を導入し、さらに、施設内にカーテンを設置することで暖房効率が20～30%向上します。山武地域のきゅうり栽培では、ほとんどの施設の天井や側面にもカーテンが設置されています。設置方法にも工夫がなさ

れ、カーテン裾部を長めに確保し、留め具や土などの重しを乗せ保温性を維持したり、穴や隙間が無いか点検を行ったりしています。

▼いちご産地の取組

「肥料低減」

山武地域のいちご生産者は土壌診断を毎年実施し、診断結果に基づく施肥を行うことで、過剰な施肥を避け、施肥量の低減につなげています。

また、一部の生産者は基肥中心の施肥体系から、追肥主体の局所施肥体系に切り替えたことで、基肥量は従来の1/3になりました。生育に合わせた適切な追肥を行うようになったことで、収量や品質が向上しました。

農業事務所では、このようなコスト低減と環境配慮への取組を推進しています。

今後、取組を検討される方は、農業事務所まで御相談ください。

千葉県堆肥利用促進ネット ワークと家畜ふん堆肥の 施用で肥料費の削減を

▼千葉県堆肥利用促進ネット ワーク

千葉県では、農業で発生する有機資源等の活用促進を図るため、県内各地の畜産農家が生産した家畜ふん堆肥の情報を、千葉県ホームページ内で公開しています(千葉県堆肥利用促進ネットワーク、以下「堆肥ネット」と表記)。

堆肥ネットでは、地域ごと、家畜の種類ごとに堆肥生産者を検索することができ、生産者の連絡先から、堆肥の原料・成分、供給価格、配送・散布の可否等のサービス内容まで、堆肥利用に必要な情報を詳しく調べることが出来ます。

▼家畜ふん堆肥を利用するときの注意

一般的に、家畜の種類によって、堆肥施用の効果や

肥効期間等の特徴は異なります。堆肥の成分等の情報を確認し、目的に合わせて堆肥を選択しましょう。

1 地域検索

下記地域のリンクをクリックすると、地域別に生産者一覧が表示されます。

- 千葉県地域：千葉市
- 東葛飾地域：市川
- 印旛地域：成田市
- 香取地域：香取市
- 海浜地域：銚子市
- 山武地域：東金市

堆肥成分等

堆肥成分表 (分析機関：千葉県農林総合研究センター、2020年1月)
※分析値は現物中の値

分析項目	窒素全量	リン酸全量	加里全量	石灰全量
分析値	0.72 %	1.04 %	0.96 %	1.36 %

C/N比：値が小さいほど肥料的な堆肥、EC：肥料成分の目安で、値が大きいほど

レーダーグラフ

区分	外枠
水分 (%)	25
窒素全量 (%)	5
リン酸全量 (%)	10
加里全量 (%)	5
石灰全量 (%)	10

堆肥ネットの検索画面と堆肥情報 (例)

水稻栽培における 化学肥料低減技術

水稻栽培において、化学肥料低減効果が高い技術を紹介します。これらの技術は「肥料価格高騰対策事業」の取組メニューとしても活用できるため、技術と事業をうまく活用して、経営の安定化を図りましょう。

▼堆肥の利用

鶏ふん堆肥は、他の堆肥に比べて速効性があり、肥料成分量が多いことから基肥の一部を代替できます。鶏ふん堆肥を約250kg/10a施用することで、窒素成分3kg/10aを代替することが出来ます。(窒素含有率約2.5%、肥効率を50%、入水直前に施用した場合)

▼施肥設計に応じた適正施肥

千葉県の施肥基準(表1)に基づき品種や土壌に合わせて

表1 主な品種の施肥基準 ※1 ※3

品種	土質	窒素 (kg/10a)	
		基肥 ※2	穂肥
ふさおとめ	砂質	4~5	3
	壤質	3~4	
ふさこがね	砂質	5~6	
	壤質	4~5	
コシヒカリ	砂質	3~4	
	壤質	2~3	
粒すけ	砂質	6~7	
	壤質	3~4	

※1 施肥量は地力に応じて増減する
 ※2 全層施肥の場合
 ※3 リン酸は基肥のみ7~9kg/10a
 加里は基肥8kg/10a、穂肥3kg/10a

て施肥設計を行うことで、適正量の施肥を行うことが可能です。

▼局所施肥

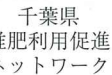
根が分布する位置に肥料を施用することで、効率的に吸収できます。側条施肥がこれに当たり、全層施肥と比べ、施肥量を約2割削減できます。

▼生育診断による施肥設計

幼穂形成期の葉色と、茎数の診断をし、目標生育量を上回っている場合は追肥(穂肥)を削減できます。診断時期(幼穂形成期)や目標生育量は毎年5月7月に発行している山武稲作情報に掲載します。メール又はFAXでの配信を希望される方は、農業事務所まで御連絡ください。



千葉県施肥基準



千葉県堆肥利用促進ネットワーク

野菜栽培における肥料低減技術

農業は、昨今の世界情勢の影響により原油・流通費用高騰による化学肥料の値上げに直面しています。その対策として、野菜栽培に活用できる肥料低減技術を紹介します。

▼土壌診断による適正施肥

土壌における養分量とバランスを把握し、肥料の過不足を防ぐためにも、定期的な土壌診断が必要です。適正施肥により、収量の安定も期待できます。

▼局所施肥技術

作物の根の分布位置にあらかじめ肥料を施用し、効率よく成分を吸収させる施肥法です。肥料の利用率は高まり減肥が可能で、濃度障害のリスクもありません。緩効性肥料を用います。

▼緩効性肥料活用技術

肥効が緩やかなため、溶脱を

抑え、施肥量を減らすことが期待できます。

○化学合成緩効性窒素肥料

CDUやIB窒素を含み、粒径を変えらるなどにより肥料の分解を緩やかにすることが可能で、窒素の肥効が持続します。濃度障害を回避でき、施肥成分の溶脱も少なくなります。

○被覆肥料（LPOPコート等）

被覆材料の種類や被覆の厚さの違いにより、溶出量や溶出期間が調整されています。作物ごとの吸収パターンに応じた被覆肥料の利用が可能です。

○硝酸化成抑制剤入り肥料（ジンアン入り化成等）

アンモニニア性窒素は、土壌中の硝酸化成菌の作用を受けて硝酸性窒素に変化すると流亡しやすくなりますが、硝酸化成抑制剤入り肥料を施用後数週間は、急激な硝酸化成作用を受けないため、肥効が緩やかになります。

人・農地プランから地域計画へ

▼背景

高齢化や人口減少により、農業者の減少や、耕作放棄地が拡大し、農地が適切に利用されなくなる恐れがあります。

そこで、農地の集約化を加速させるため、令和4年5月に農業経営基盤強化法等の一部が改正され、人・農地プランが法定化されました。

▼地域計画の策定

地域において、将来の農地利用の姿（米から野菜等の高収益作物への転換、農用地の集積・集約化や基盤整備事業の取組方針等）について、農業者、市町村、市町村農業委員会などの関係者で話し合いを行います。

それを明確化した地域計画を策定し、農地の集約化とともに、受け手の確保を進めます。

▼目標地図の作成

将来、地域の農地を誰が利用し、農地をどうまとめいくか、

話し合いの結果やアンケート等を基に10年後の農地の出し手や受け手の意向を反映した地図（目標地図）を作成しましょう。

目標地図は、農地ごとに将来の受け手をイメージとして標すものであり、これによって貸借の権利等が設定されるものではなく、農地の権利は、目標年度（地域計画策定から10年後）まで柔軟に設定できるため、農地の出し手が耕作できなくなった段階で、受け手が引き受けられよいこととなっています。

そのため、地域で調整できた範囲で目標地図を作成し、状況の変化に応じて農業者の意向等を踏まえ、随時変更しながら徐々に完成度を高めていきたいと思います。



**令和4年度に認証された
千葉県指導農業士・
農業士の紹介**

今年度、新たに指導農業士、農業士に認証された方々を紹介いたします。今後、益々の御活躍を期待いたします。

【指導農業士】

○伊藤 克彦氏 (山武市)



水稲と地域特産物であるねぎの複合経営を行っています。

ます。農地集約による効率的な営農と、低農薬栽培による環境にやさしい農業を実践しています。

○瀧田 修氏 (横芝光町)



地域特産物であるねぎと水稲の複合経営を行っています。

先進技術の情報収集とその実践を積極的に行い、高品質・高単価なねぎの安定的な生産につなげています。

【農業士】

○今関 泰寛氏 (東金市)



いちごの直売経営を行っています。消費者に喜ばれるいちごの栽培を目指し、天敵資材の活用と農薬使用量の削減を心掛けています。

○平山 修氏 (山武市)



地域特産物であるねぎの専作経営を行っています。

土づくり等、基本技術の徹底と作業環境の改善に取り組み、効率的な経営を営んでいます。

○平山 茂己氏 (芝山町)



葉物野菜を中心にミニだいこん、ねぎ等の生産を行っています。

有機JAS認定(ハウス栽培)やJGAP認証を受け、持続的な農業経営を実践しています。

**山武で活躍する
若手生産者**

横芝光町でねぎの栽培を行っている吉岡伸晃さん(34歳)を紹介いたします。

吉岡さんは高校卒業後、一般企業に勤めていましたが、両親が営農していたこともあり、24歳で就農しました。就農後は、両親のもとで栽培方法や経営を学び、4年前から主体的にねぎの栽培や販売を行っています。ねぎを栽培するようになり、天候の影響や病害虫の対応など多くの課題に直面しましたが、持ち前の社交性の高さで築いたコミュニティを活かし、課題を解決してきました。

現在は、GAP認証による販路の拡大を目指し、出荷先や農業事務所との指導を受けながら、JGAPの個人認証の取得に向けて、作業工程の見直しや作業場の改善を行っています。また、収穫期の調製作業にパートを入れていますが、今後は畑作業も

できる人材の雇用を計画しており、将来的には栽培面積を広げていきたいと考えています。常に意欲的にチャレンジを続ける、吉岡さんの今後の活躍が期待されます。

